

第1回疫学専門家認定筆記試験 実施要項（概要）

1. スケジュール

申請期間：2019年11月1日～11月20日

書類審査：2019年11月21日～2020年1月20日

筆記試験：2020年2月22日（土）第30回学術総会終了後

結果発表：2020年3月を予定

2. 試験会場

京都大学吉田キャンパス

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/>

3. 受験資格

事前の書類審査により受験資格を得た者

4. 試験内容

筆記試験（多肢選択形式）、出題数：50題、解答時間60分

5. 出題範囲

「はじめて学ぶやさしい疫学（日本疫学会標準テキスト）改訂第3版（南江堂）」を教科書として指定する。一部、テキストの範囲を超える問題も出題される。問題例を公表するので参考にすること。

6. 問題例

学習の参考として次ページ以降に10問の問題例を公表する。なお、「2つ選べ」等の注意書きがない限り正解は1つとする。また、完全な正解がない場合でも、最も正解に近い選択肢を選ぶこととする。

【問題例 1】

前向きコホート研究において誤っているのはどれか。

- a. 罹患率を計算できる。
- b. 因果関係が証明できる。
- c. 症例対照研究よりも費用がかかる。
- d. 症例対照研究より曝露の評価が正確である。
- e. 複数のアウトカムを同時に研究することができる。

正解：b

【問題例 2】

研究デザインに関する次の文のうち、誤っているのはどれか。

- a. 横断研究では、疾病と要因の保有状況を同時に調べる。
- b. 症例対照研究では、疾病の罹患率をとらえることができる。
- c. 生態学的研究では、疾病と関連する要因を集団単位で評価する。
- d. クラスターランダム化比較試験は、グループ単位で割付けを行う。
- e. コホート研究は、まれな疾病をアウトカムとする研究には不向きである。

正解：b

【問題例 3】

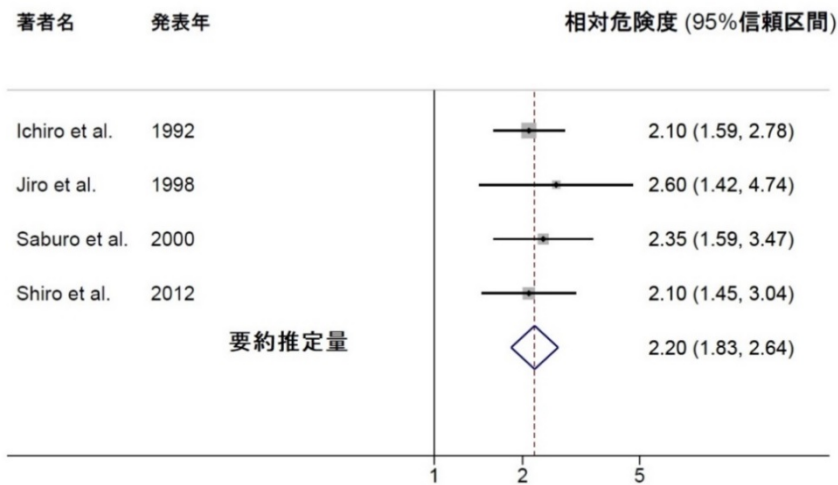
バイアス（系統誤差）について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a. 無作為抽出はバイアスを避けるためである。
- b. 測定の標準化はバイアス対策の一つである。
- c. 統計的検定の有意水準を変えることで、バイアスの影響を小さくできる。
- d. サンプルサイズを大きくすることで、バイアスを取りのぞくことができる。
- e. バイアスのある測定値は、真の値を中心に左右対称にばらついた分布となる。

正解：ab

【問題例 4】

喫煙と死亡リスクとの関連を調べた研究結果を示す。



この図に関する記述で正しいのはどれか。3つ選べ。

- a. メタアナリシスである。
- b. 出版バイアスの有無が判断できる。
- c. 喫煙者は非喫煙者に比べ死亡リスクが 120% 上昇する。
- d. 図はファンネル・プロット (funnel plot) と呼ばれる。
- e. 要約統計量の相対危険度の標準誤差は個々の研究よりも小さい。

正解：ace

【問題例 5】

A 町での死亡率が県全体より高いかどうか調べるために、県を基準集団として A 町の年齢調整死亡率を直接法により求めた。(死亡率は人口 100 対)

年齢	A 町			基準集団		
	人口	死亡数	死亡率	人口	死亡数	死亡率
0～29 歳	100	1	1.0	2500	50	2.0
30～59 歳	100	3	3.0	1500	30	2.0
60 歳～	300	15	5.0	1000	50	5.0

正しいのはどれか。

- a. 2.4
- b. 2.8
- c. 3.2
- d. 3.4
- e. 3.6

正解：a

【問題例 6】

次の表をみて正しいのはどれか。有意水準は $P < 0.05$ で判断するものとする。

Table 5b. AF* as an independent variable of the prevalence of stroke in the studied Chinese population

	P	OR†	95.0% C.I. for OR	
			Lower	Upper
Dyslipidemia (yes)	<0.001	3.220	2.717	3.815
Hypertension (yes)	<0.001	3.067	2.543	3.698
AF (yes)	<0.001	2.776	1.814	4.248
Age (per year)	<0.001	1.063	1.055	1.071
Diabetes (yes)	<0.001	1.924	1.505	2.459
Smoking (yes)	<0.001	1.460	1.211	1.761
Drinking (yes)	0.510	0.937	0.773	1.137

*: atrial fibrillation; †: odds ratio

出典：doi:10.2188/jea.JE2008021

- a. 飲酒はリスク抑制効果がある。
- b. 心不全のリスクに関する研究である。
- c. AF の真のオッズ比は 1.814 の可能性がある。
- d. 高齢者は若年者に比べて 1.063 倍リスクが高い。
- e. Cox の比例ハザードモデルによる分析が行われている。

正解：c

【問題例 7】

人口 30 万人の A 市の脳血管疾患標準化死亡比 (SMR) は 133 で有意に高い値であった。真に高い場合の他に、可能性の高い理由はどれか。

- a. 気候が温暖なため
- b. 偶然の影響による
- c. 高齢者人口割合が高いため
- d. 死亡届け漏れの地域差による
- e. 死亡診断書の記載傾向による

正解：e

【問題例 8】

ある部位のがんのスクリーニング検査で、A さん（50 歳男性、喫煙者）は陽性となり精密検査をうけるよう通知があった。このスクリーニング検査の感度は 80%、特異度は 90%であり、A さんと同様な特性をもつ集団のがんの有病率が 1000 人に一人であったとする。スクリーニング検査が陽性とされた時点で A さんが真にがんを有する確率は以下のどれに最も近いのか。

- a. 80%
- b. 10%
- c. 5%
- d. 1%
- e. 0.1%

正解：d

【問題例 9】

多量飲酒と死亡との関連をみるコホート研究を行った。分析の結果、下記のいずれも飲酒量との有意な関連がみられた。交絡因子として調整すべきでないのはどれか。

- a. 学歴
- b. 年齢
- c. 食道炎
- d. 喫煙習慣
- e. 身体活動量

正解：c

【問題例 10】

妊娠の計画性に関する質問を開発する。調査は子供を持つ女性を対象に行った。計画外妊娠の経験の有無と計画外妊娠の経験回数について、対象者 56 人に 2 週間の間隔を空けて同じ質問をしたところ、以下の結果が得られた。

	一致度	2 回の調査の差の平均値	相関係数
計画外妊娠の有無	0.75	-	-
計画外妊娠の回数	-	-0.3	0.86

正しいのはどれか。2 つ選べ。

- a. 2 回の調査間隔は短いほど良い。
- b. 相関は Spearman の相関係数を用いた。
- c. 一致度の検定には、カッパ係数を用いた。
- d. 相関係数が高いため、開発した質問の妥当性は高い。
- e. 差の平均値が小さいため、開発した質問の感度は低い。

正解：bc